

第14回

武漢熱線

Wu-han Hot Line

Wu-han Hot Line

大分市武漢事務所
スタッフ 趙南星・賈芳

武漢とオリンピック

2008年8月8日、第29回オリンピック競技大会が首都北京で盛大に開催されました。オリンピック開催は中国100年の夢であり、武漢市は中国長江流域と華中地域の中心都市として、オリンピックでも重要な役割を担いました。

新中国が成立して始めて参加したロサンゼルスオリンピックからシドニーオリンピックまで、新中国が出場したすべてのオリンピックに武漢出身選手の活躍がありました。合計10枚の金メダルは全国一です。メダル獲得種目は様々ありますが、特に武漢のある湖北省は「体操の故郷」と言われるほどの全国的に体操が盛んで、李小双、李大双、楊威、黄力平など世界レベルの選手は皆湖北省出身であり、我々の誇りです。

武漢の近代スポーツ史は清朝末期の張之洞総督が湖北新軍の訓練に欧米の体操を取り入れたことが始まりといわれています。1903年、「湖北省幼稚園方策」に初めて「スポーツ」という概念が提示され、近代スポーツが正式に導入されました。その後1910年、武漢は第1回全国体育運動会に参加した際には、武漢のスポーツ事業のレベルの高さを中国国内に印象づけました。



聖火リレーを待つ人々



聖火リレー走者への寄せ書き

オリンピックで優秀な成績を収められるということは選手たちの弛まぬ努力は勿論ですが、スポーツに対する武漢市民の高い理解が作った基盤も大きな理由であると言えます。武漢は競技スポーツだけではなく、市民レベルのスポーツ活動も盛んな土地です。例えば武漢は、都市部の中心に長江とその支流の漢水が交わり、更に多数の湖もあるので、水上スポーツは大いに盛んで有名です。健康づくりへの関心も高く、生涯何らかのスポーツをするという人は人口の42.3%にも

なります。

今回のオリンピックに武漢市は大いに盛り上がりましたが、特に5月31日の聖火リレーは盛大なイベントでありました。湖北省と武漢市は中華民族及び中国古代文化の発祥地の一つであり、聖火リレーのコースはその特色を堪能できるよう設定されました。黄鶴楼から漢口バンド三峡石広場まで、コースの沿道は二百万以上の市民で埋まり、町中が大歓声に包まれました。

民間の歓迎イベントもたくさん催されました。当事務所向かいの解放公園で開催された大型のフラワーフェスティバルでは生花が200万本も使用され、オリンピックに関連した作品が豪華に並んでいました。また、各大学の学生も積極的に関連イベントを行い、オリンピックの歴史と精神を紹介し、世界平和へつなげようと呼びかけていました。オリンピックの情報サイトも絶大な人気で、今回のオリンピックに対する武漢市民の熱狂はまだまだ収まりそうにありません。



武漢市の解放公園



解放公園のフラワーフェスティバル